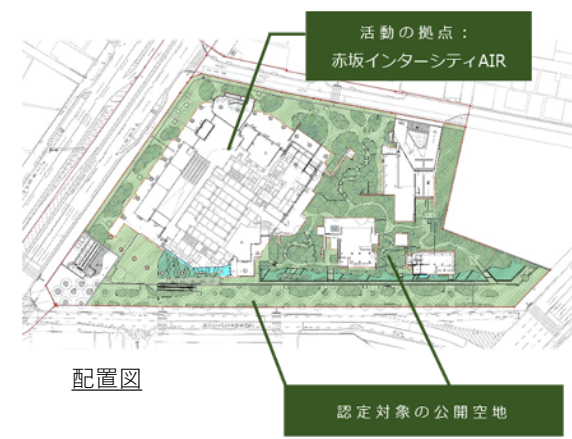


- 1 . 活 動 名 称 「赤坂インターシティエリアマネジメント」
- 2 . 対 象 地 域



3 . 地 域 の 現 状

- (1)「街と人につながる赤坂虎ノ門緑道」
- 溜池は文化と人の結節点であり、赤坂と虎ノ門の交流拠点として、人の往来と交流が増えていくことを期待して創られたのが「赤坂虎ノ門緑道」である。
 - 地域のシンボルとして認められるためにイベントや交流の場を用意して「歩いて楽しい道」としての活用が必要。
- (2)「開発事業等により整備された多くの公共的空間」
- 近隣地域では再開発等で大規模な共同化と更新が進んでいる。
 - 賑わいづくりやイベントなどは、施設ごとの活動が中心で実施されているが、地域内の施設間で情報共有が少ない状況。
- (3)「町会等地域活動の担い手不足」
- 町会等の地域活動の担い手は不足していて、企業やワーカーの参加が必要。
 - 地域の働き手は多様で住民も多いが、多様なワーカー同志、あるいは住民との交流機会は少ない状況。
- (4) 地域の魅力発信
- 神社の祭礼などでは赤坂地域の町会と企業が一体感をもって取り組んでいる。
 - 企業と住民が町会やエリアマネジメント活動で協力し、交流を持つことで我が街感が得られるのと同時に地域の魅力として認知され、共有されていくことが期待できる。

4 . 当 地 区 の 将 来 像 ・ 目 標

《将来像》

多数の企業ワーカーに我が街感を持ってもらうことは重要です。
この共感が、地域の魅力として定着することで地縁性が高まり、エリアマネジメント活動の目的が達せられると考えられることから将来像を以下のとおり設定しました。

多様な人々の交流で賑わい創出、並木道を新たな地域のシンボルに

- 《目標》
1. 緑道（並木道）を地域のシンボルに
- イベントの開催で、“地域を結びつける開かれた緑道”を創出
新たな体験価値と多彩な取り組みでファンを増やす
2. 多様な人たちのコミュニティ形成
- 地域の多様で多層にわたる人々の交流の場を創造 参加型イベントで我が街を実感
3. 地域の魅力の共有と発信
- 地域の交流拠点として賑わいを創出し、参加を増やして地域の魅力発信を大規模化

5 . 組 織 体 制

活動主体：日鉄興和不動産株式会社

事務局：賃貸事業本部エリアマネジメント部
サポート：赤坂インターシティマネジメント（株）
（赤坂インターシティAIR管理会社）

6 . 取 組 内 容

(1)【タイトル】 緑道縁日2024

【テーマ】「癒し」と「楽しい体験」を参加者が同時に共有できるコミュニケーション機会の提供

【開催内容】 空間演出・屋台フード・ドリンク販売・グリーン関連物品販売
・ワークショップ・お休み処・ストリートパフォーマンス

地域に開かれた並木道に縁日風に屋台・お休み処（テーブル・イス）を配置し、様々な人たちの交流を図る。これまで活用できなかった公開空地で音楽やパフォーマンスを実施するなど新しい地域の魅力を創出、開催時には来場者からの情報発信を促すように取り組む。

(2)【タイトル】 緑道綱引き大会

【テーマ】 実施の難しかったアクティビティの伴う参加型イベント

【開催内容】 屋台フード・ドリンク販売・応援席・DJブース

これまで活用できなかった公開空地でチーム対抗の綱引きを実施。参加者を広く募り、応援者を含む様々な人たちの交流を図る。
並木道に応援席とDJブースを配置し、新しい地域の魅力を創出。開催前からSNSを活用した情報発信を行い、開催時には来場者からの情報発信を促すように取り組む。

(3) 2025年度以降の計画

【タイトル】手仕事マルシェ ハンドメイドの物品や食品を集めたメルカート

並木道にメルカート風に屋台を配置し、往来する人のひと時の滞在を創り出す。座って休めるような場も用意し、様々な人たちの交流を図る。おしゃれで優しい新しい地域の魅力を創出。

【タイトル】ミュージックウィーク 特設ステージを設け、楽器演奏等

並木道にストリートピアノを配置し、往来する人のひと時の滞在を創り出す。座って休めるような場も用意し、様々な人たちの交流を図る。

7 . 活 動 効 果

(1) 緑道縁日

- ①赤坂虎ノ門緑道の新たな価値の創出
- 今までできなかった並木道でのイベントは、ウォーカブルに資する並木道の良さを実感してもらうことで本地区以外での緑道でのこうした活動が期待できる。
- ②コミュニケーション創出機会の多様化
- 「地域の住民、ワーカー、企業等の交流」を図り、活動に参加してもらう機会を増やしていくことで活動の運営に携わる人材を増やすことができるのと同時に、町会への参加や地域活動の担い手も増えることが期待できる。

(2) 緑道綱引き大会

- ①地域の様々な主体の連携が深まる
- 参加者のみならず応援や見学を通じ一体感を創り出すことで、今までになかった自然な交流と共感が生まれることが期待できる。
- ②シティブロモーションの強化
- 「スポーツイベント」ならではの一体感と高揚感で、緑道ファンを増やす取り組みであるとともに、こうしたイベントの開催を起点とした我が町の取り組みをPRしてもらうことが期待できる。（名物化）

(3) ミュージックウィーク

- ・地域の文化施設との連携
- 誰もが連帯できる音楽を絆に、「文化施設と音楽のある街」というイメージづくりに参加してもらう取り組みとして有効（中広域の連携策として）。

(4) 手仕事マルシェ

- ・地域の交流の場
- 並木道に屋台が並ぶメルカートのような場所は地域の交流の場になり、地域の魅力として発信できる。



『緑道縁日2024』



『綱引きイメージ』



『マルシェイメージ』



『緑道イメージ図』